暑熱の時期が到来？備えておきましょう、暑い夏のために

昨年は６月から低温が続き、その後３つの台風が本道を直撃し、例年を大きく上回る降水量となり、夏の暑熱対策はどこへ行ったかという感じでした。

しかし、今年も夏はやってきます。気象庁の３ヶ月予報では平均気温が高い確率が５０％と暑くなりそうです。

牛の生産性を落とさぬよう暑熱の備えをしておきましょう。

１　心地よい空気と風を

乳牛は、第一胃の発酵や産乳による代謝など、自ら発生する熱が多いため暑熱に耐えられません。

２２℃以上の気温が続いた場合や夜温が低下しない時など、乳量や繁殖成績に大きく影響し、暑さのピーク後もすぐには回復しません。

牛舎の扉、窓など最大限に解放し、換気量を確保する工夫が必要です。

送風は、体感温度を下げる効果が大きく、風速１ｍの風で、６℃体感気温が下がります。（表１）

表１　風速を考慮した体感温度の変化　（単位：℃）

舎内温度	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
風速1m	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34
2m	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32
3m	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30

※　体感温度＝気温－6√風速　を基に換算し作表

（出典：津田恒之・柴田彰夫（1987）新乳牛の科学p230、農文協）

２　いつでも食べられる環境

飼槽・水槽の食べ残しは変敗臭が発生し、採食を妨げます。一口でも多く食べてもらえる環境を整え、乾物摂取量を落とさないようにしましょう。

・飼槽・水槽のこまめな清掃（写真１）

・給餌回数・掃き寄せ回数を増やす

・消化性の良い飼料（早めに刈った牧草やコーンサイレージ）の給与

写真１　ぬめりの無い水を

３　直射日光を避ける

牛舎内に直射日光が差し込む事で温度が上昇します。

写真２　直射日光を遮るネット

遮光ネットやすだれなどで直射日光をさえぎると（写真２）、発熱原因となるコンクリートの表面温度は１０℃前後まで下がります。

ただし遮光ネットなどの設置時は、送風・換気などをさえぎることの無いよう留意します。

４　放牧地でも涼しく

放牧されている牛たちも、直射日光にさらされてはたまりません。

放牧地でも日陰（写真３）と十分な給水が確保されているか確認が必要です。確保できない場合は、日中牛舎内に残し夜に放すなどの対応が必要です。

写真３　やっぱり日陰が最高です